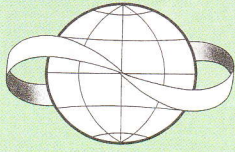


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



商標登録第 4882482 号

第46号
(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
TEL : 042 - 395 - 9788
FAX : 042 - 395 - 9787



**新年明けまして
おめでとうございます。**

日頃、資源リサイクル事業に、ご支援とご理解を賜り心から御礼を申し上げます。

厳しい経済環境が続いておりますが、本年は穏やかな幸多き年になりますようお祈り申し上げます。

昨年一年間の資源リサイクル市況を振り返って見ますと、

古紙も鉄スクラップも銅やアルミなどの非鉄金属類も、世界同時恐慌の影響で価格は暴落し、発生量も二〇〜三〇%減少致しました。

古紙類は、新聞の頁数や折込チラシの減少、雑誌など刊行物の講読部数減少などの影響によって、古紙類の発生も二〇%ほど縮小しました。

鉄や銅アルミなどの非鉄金属類のスクラップも、自動車産業や公共事業、住宅新築件数低下などの不振で、発生が三〇%以上と大き

く落ち込んでしまいました。

再生資源類の発生は減少しましたが、それを原料として再利用し、製品を製造する国内の製紙・製鉄メーカーなどがさらに減産を強めたため、再生資源類の市場は冷え込み、特に古紙類の価格はなかなか回復しないまま越年しました。

なお、お隣の中国は、不況対策として大規模な内需拡大政策を進め、いち早く経済は復興いたしました。再生資源類の輸出価格も徐々に回復し、我が国からの鉄屑や古紙の輸出量も過去最大を記録致しました。

**今後、日本の再生資源類の流れは、
どうなるのでしょうか。**

実はこの十年余り、再生資源物は、回収率が向上して国内の利用率を上回り、余った分は中国などに輸出しています。

その量が毎年増加の一途を辿っています。今回の経済恐慌で、さらに国内で余剰化し、輸出する量が増加したわけです。

世界中から輸入してきた資源やエネルギーを消費して我が国の衣食住は成り立っています。その結果生まれる再生資源を海外に還元するのは当然のことです。

従って再生資源の海外輸出は、

日本のリサイクル事業を推進するうえからも、今後とも拡大して行くことになることは必然です。

国内だけのリサイクルから、アジア全体の大きな輪を形成して、経済の発展にも便乗しつつ、再生資源類も有効利用を拡充して行く時代が来たようです。

**今から、もっとやらなければなら
ないことはなんだろうか。**

資源回収は表面に出ない部分で多額のコストが掛かっています。特に、びん・缶・ペットボトル・紙・プラなどの容器類は、殆ど税金で収集分別加工まで行います。

さらに回収コストのかかるものほどCO2発生増につながります。そして、全国の飲料水用自動販売機の電気の使用量は、原子力発電所一機分になるとのことです。

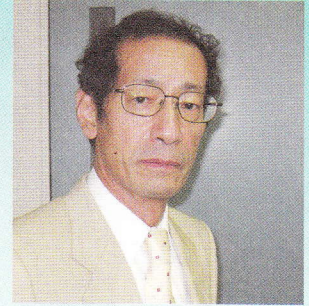
マイバック運動が叫ばれていますが、レジ袋の何十倍も無駄遣いしているものが私たちの周りには、まだ沢山あります。

さらにごみの中にはリサイクルできるものがまだ含まれています。本来に必要なものかどうか、簡単にリサイクル出来るものかどうかを見極める市民の目が益々大切になってきます。

理事長 紺野武郎

直言拝聴

リサイクルの推進とごみ有料化



東洋大学経済学部教授
西東京市ごみ減量推進審議会会長

山谷 修作

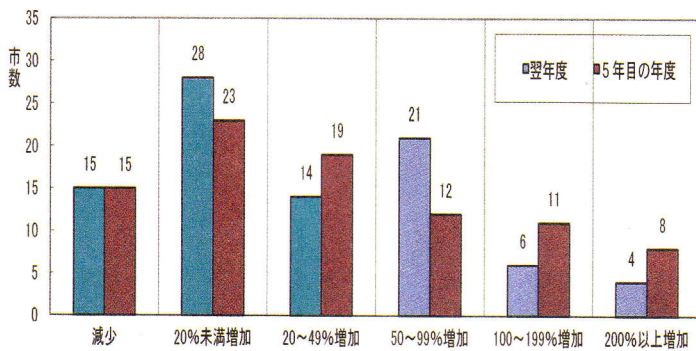
ごみ有料化と減量の受け皿整備

リサイクルの推進は、ごみ減量による最終処分場の延命化、環境負荷の軽減、そして限りある資源の有効活用の観点から、現代の社会経済における重要な取り組み課題として認識されている。

リサイクルを低コストかつ高品質で実施するには、ごみの排出者サイドにおける適正な分別が欠かせない。そこで、容器包装リサイクル法の施行を追い風として、全国各地の自治体において、住民の協力のもと、資源物の分別回収が進展してきた。しかし、多種細分別に取り組んでいる割には、ごみ排出原単位の減少率、リサイクル率が低い水準にとどまっているケースが多い。分別回収の制度が整備されても、ごみ出しが無料であると、住民にとって減量・リサイクル推進への取り組み意欲が十分に出てこない。

分別・資源化への取り組みのインセンティブを提供できるという点で、ごみ有料化はすぐれた手法である。分別・資源化システムを活性化するために、有料化と分別回収・資源化の拡充は、併せて実施されることが望ましい。そして、資源物については無料または低率の手数料にして、その分別回収システムをごみ減量の受け皿として

図1 有料化導入後の資源物の増量効果



注) 調査対象とした有料化市の数は88。
(出典) 筆者の第3回全国都市家庭ごみ有料化調査より作成。

位置づけることが望ましい。有料化と資源物回収拡充が併用されることにより、住民は分別の強化を通じて、有料のごみを減らし負担を軽減しつつ、リサイクルに貢献できるからである。

有料化のリサイクル促進効果

ごみ有料化によるリサイクル促進効果を確認しておこう。2008年に筆者が実施した全国都市家庭ごみ有料化調査によると、有効回答を寄せた88市についての有料化導入の前後における資源物(集団回収を含む)の増量効果は図1に示す通りである。

有料化導入後には、資源物回収量は導入翌年度、導入5年目の年度とも全体の83%の市において増加しており、減少したのは全体の17%にとどまる。

有料化導入後における資源物回収量の増量は、2つの要因によりもたらされたと判断される。1つは、有料化実施に伴う価格シグナルにより、住民に対して合理的な行動をとる意志決定のための情報が「見える化」され、これを受けて住民の多くが経済的負担の増加を回避するためにリサイクル推進行動をとったことによるものである。それにもう1つ、有料化の導入と合わせて、減量の受け皿整備策として分別回収・資源化の拡充を実施する自治体が多いことによる。

このように、有料化導入によりリサイクルが促進されるなら、リサイクル率についても有料化自治体の方が非有料化自治体よりも高くなる傾向があるのだろうか。首都圏1都6県の中から自治体有料化実施率40%以上の茨城、栃木、群馬、千葉の4県について県内の有料化・非有料化両自治体グループのリサイクル率の単純平均値を比較してみた。その結果は表1に示す通りである。

表1 各県有料化・非有料化自治体の平均リサイクル率

	有料化自治体数/ 県内全自治体数	有料化自治体の 平均リサイクル率	非有料化自治体の 平均リサイクル率	県内全自治体の 平均リサイクル率
茨城県	21/44	16.2%	20.2%	18.3%
栃木県	9/31	25.9%	20.6%	22.1%
群馬県	22/38	25.3%	14.6%	21.9%
千葉県	29/56	21.9%	24.1%	22.9%

注) 県内自治体のリサイクル率は、環境省「一般廃棄物処理実態調査結果(平成19年度)」の数値(R)を用いた。

計算をする前、4県とも有料化自治体グループのリサイクル率の方が非有料化自治体グループのそれより高いだろうと思っていた。しかし実際には、栃木県と群馬県で有料化自治体グループの方が高かったが、茨城県と千葉県では逆に非有料化自治体グループの方が高く出た。これは、茨城県と千葉県において、有料化によるリサイクル促進効果が発現していないというよりは、有料化未実施の自治体の中にリサイクル率のきわめて高い自治体がそれぞれ複数存在することによる。

役割分担と協働の枠組みづくり

リサイクル政策のオーストリチーとして知られる寄本勝美教授は、著書『リサイクル社会への道』(岩波新書、2003年)の中で、リサイクルを維持発展させる仕組みとして次のような「役割相乗型システム」を提唱している。

教授によるとそれは、「市民(消費者)、企業と行政のそれぞれの役割を適切に組み合わせ、それによって得られる相乗的な効果をできるだけ大きくしていくことができる仕組み」である。そして、リサイクルにおける製造業者の役割を例にとり、「製品の原・材料選定や組み立ての際に、リサイクルをしやすい製品を作るようにあらかじめ十分な配慮をするように努めれば、市民や事業者、自治体、再生資源業者によるリサイクル活動は、それによってどれだけやりやすく、実り多いものになることだろう。」(同書、67頁)と述べている。筆者もこの意見に賛成である。リサイクル活動は、住民、製造・販売業者、再生資源業者、行政の役割分担と協働の枠組みが構築されてはじめて円滑かつ効率的に回っていく。行政収集、集団回収、地域回収、拠点回収いずれの収集方式でも、住民、販売事業者と行

政との協働をベースにしており、そこに再生資源業者が加わって、役割分担者間の信頼関係のもとに地域のリサイクル活動が成り立っている。

地域のリサイクルシステムを円滑かつ効率的に回すには、一定のルールを必要とする。住民についていえば、早朝の時間帯に、決められた排出場所に、適正な分別を施したうえで排出することが基本である。しかし、自治体の分別収集事業が高度化し、多品目の分別回収を行うようになると、住民にとって分別方法を理解しにくくなり、労力の負担も増大する。

自治体は、分別を徹底し、ルール違反を減少させる狙いで、住民に対して広報紙、ホームページ、住民説明会などを利用して啓発活動を実施している。一部自治体では町内会役員や減量・リサイクル推進員が早朝、資源物ステーションで分別指導や排出の手伝いをしている風景も見られる。

これまで連続と続けられてきた地域のリサイクル活動であるが、従来から問題とされた資源物価格の不安定性に加え、全国各地で高齢化に伴う町内会活動の衰退、若者層の町内会離れ、単身赴任者・学生等のルール違反、分別排出された資源物の抜き取り行為が大き

な問題となっている。

行政サイドのこれからの取り組みとして、分別排出された資源物のリサイクル後の状況を含む情報の可視化をはじめ、集合住宅の居住者・管理者への分別排出や集団回収登録への働きかけ、ライフスタイルの多様化に対応した資源物常時回収ステーションの整備、法的措置を含む資源物抜き取り対策の強化など、時代の変化に対応した施策が重要となるのではなかろうか。

先進的取り組みの背後に
行政の熱意と市民の協力

最後に、長年にわたり全国各地のリサイクル活動を見聞された寄本教授の次の感想を引用しておきたい。ごみ有料化の取り組みに関して、筆者も先進自治体を回って常々感じていることだからである。「先進的、個性的な取り組みを実施している市町村を見ると、そこには必ずといってよいほど、仕事に情熱を燃やし、アイデアや工夫の創出に努力し、時には他の市町村よりも良い仕組みを築こうする気概を持った職員、その職員たちによる気や自信を与えるような指導性を発揮してきた幹部やトップ、さらにはこのような行政サイドの動きにさまざまな形で協力、参加してきた市民がいることに、気づくのである。」(同書、193頁)

東リ協会リサイクル フォーラムに参加

去る一二月一五日(火)、(社)東京都市リサイクル事業協会主催のリサイクルフォーラムに参加した。

第一部の基調講演は、今回号の直言拝聴にもご寄稿頂いている東洋大学経済学部総合政策学科 教授 山谷修作氏から『リサイクルの推進とごみ有料化』というテーマでの講演であった。講演内容は、直言拝聴を参照されたい。

第二部では、練馬区環境まちづくり事業本部 環境清掃部清掃管理課長 斎藤久美子氏、多摩市くらしと文化部 ごみ減量担当課長 松平 和也氏をパネラーに、同協会理事の江尻京子氏をコーディネーター、山谷教授をコメントーターに『家庭ごみ有料化』をテーマにしたパネルディスカッションが行われた。

パネラーより、練馬区、多摩市のそれぞれの自治体におけるごみ処理、リサイクル、回収方法法等



の説明があり、その後ディスカッションが行われた。

資源回収の方式や考え方は各自治体で異なっているが、多くの自治体では、行政回収・集団回収を並行して行っている。一方、荒川区のように九九%集団回収というところもある。一般的に、集団回収の方が行政回収よりもコストがかからないが、自治会等に所属していない世帯や、学生、単身者など地域のコミュニケーションが取れていないため、集団回収に参加

できず、資源がごみ化してしまうなどのデメリットもある。そこで、多摩市では、エコシヨップ認定という制度を取り入れ、店先にボックス等を設置して店頭回収をするなど、環境に配慮しているお店を増やし、集団回収のデメリットを補い、行政回収から集団回収・店頭回収への切り替えを進めているそうだ。

最後になりますが、今回のフォーラムに参加し、リサイクル率の向上やコスト削減のために各自治体がさまざまな工夫をしていることが分かった。ただ、数字に表される%や金額を追うだけでなく、市民・行政・回収業者がしっかりと連携し、コミュニケーションをとる必要を感じた。集団回収行政回収のそれぞれの利点を生かし、両輪で持続可能な資源循環型社会を形成のためのシステム作りをしていくことが必要だ。(Y)



こんなものからも 紙が作れる…けど？

一二月に東京ビッグサイトで開催された『エコプロダクツ二〇〇九』で、古紙問題市民行動ネットワークのブースのお手伝いをしてまいりました。そのクイズの中で、『ぞうのうんち』や『キャベツ』から紙が作れる(『ゾウさんペーパー』、『キャベツペーパー』)というのがありました。『割り箸』から作った紙なんていうのもありましたよね。



ぞうさんペーパー

でも、注意して頂きたいのは、『ぞうのうんち』や『キャベツ』や『割り箸』から紙を作るには、特殊な工程が必要であり、『古紙』と混ぜて製紙原料になるわけではない、ということ。『ぞうのうんち』はさすがにありませんが、『割り箸』は結構古紙に混じってくるが多量です。草や藁(ワラ)なども繊維質のあるものなら、紙は作れます。しかし、コストが高くなり、紙の質も悪く、実用するものはすくないようです。

古紙はあくまで『紙』。紙以外の物は入れないで出して下さい。

(地球防衛軍工)

新年の ごあいさつ

総務委員長 萩原 貞雄

新年明けましておめでとうございます。
 昨年は、「官公需適格組合」の下
 で、毎年実施している組合委託業務
 の検査活動の更なる充実を図りまし
 た。

また、環境関連資格「エコアク
 ション21」を更新し、資源のリ
 サイクルはもちろん、ごみの減量・
 地球環境の保護等に努力しました。
 本年も、これらの資格を活用し
 ながら、行政・市民の皆様により
 一層信頼されるような事業の遂行
 に尽力してまいります。

業務委員長 小畑 和夫

新年明けましておめでとうございます。
 昨年は世界的な経済不況の中、
 業界にとって非常に厳しい一年で
 したが、業務委員会としても組合
 業務の充実を図ってきた一年だっ
 た気がします。今年もさらに不況
 は続くと思われていますが、業

務委員会は組合スローガンである
 「地域に根差したリサイクルパー
 トナー」として本年も昨年同様、
 市民に信頼される組合業務を目指
 してまいりますので、どうか宜し
 くお願い致します。

財務委員長 古川 敏雄

昨年は、皆様には組合の財務に
 対し、御理解・御協力を頂き、あ
 りがとうございました。
 今年の景気予想は厳しいという
 事で、皆様の一層の協力で、経費

謹賀新年

の削減・業務の合理化等の充実を
 図ると共に、各リサイクル施設の
 見学や講習会等を行い、組合員の
 リサイクルや会社経営に関する知
 識・技術の向上に努めるべく尽力
 して行きたいと思えます。

集団回収委員長 土井 健一郎

新年明けましておめでとうございます。
 昨年は、各市の集団回収団体の
 皆様との交流会に参加し、意見・

情報交換を活発に行いました。
 本年も、集団回収団体の皆様と
 の交流をより一層深めて行きたい
 と思えます。

福利厚生委員長 田中 彰

謹んで新春のお慶びを申し上げま
 す。

昨年は、豊島硝子・柏洋硝子工
 場を見学する等（詳細は9頁）、組
 合員に対する研修活動を活発に行
 った他、従業員向けの研修・福利
 厚生活動の充実も図りました。

本年も、組合員・従業員に対す
 る研修・福利厚生活動のより一層
 の充実を図っていききたいと思っ
 ています。

広報委員長 吉浦 高志

謹賀新年

昨年は資源業界にとって悲惨な
 状況でのスタートとなりましたが、
 本年は中国の高成長による資源需
 要が増大傾向になりそうです。内
 外の景気に左右されない資源循環

型社会構築の為に情報を的確に発
 信してまいります。

青年部長 福田 雄二

昨年、青年部長を拝命し初めての
 新春を迎えます。

昨年は当組合の受注検査委員会
 と青年部で連携し、組合員各社の
 従業員に安全講習会を行いました。
 「考えて、行動する青年部」と
 して色々な企画の立案、実施をし
 てまいります。

市民の皆様のご信頼と付託にこた
 えられる組合作りの為にも、青年
 部一丸となって活動してまいりま
 すので変わらぬご指導をお願い致
 します。

トイレットペーパー

「フューメラン」

(65m巻き・100個入り)

1ケース3,000円(消費税・配達料込み)です。

※注文は1ケース単位です。

※尚、配達地域は以下の地域に限定致します。

(小平市・東村山市・東久留米市・

清瀬市・西東京市・東大和市)

ご注文は当組合までお願いします。

TEL&FAX : 042-395-9788

東多摩再資協 委託業務回収車両 運転者安全講習会

(参加者 10業者より97名)

平成21年11月20日(金)東村山市民センターで委託業務回収車両運転者安全講習会が行われました。当組合では市民の皆様と自治体からの信頼と付託を受け、資源回収業務を行っております。当講習会を行い、より一層回収業務の品質向上、安全管理に努めていくことを目的としています。

古川副理事長の開会の辞のあと、参加者全員で「東多摩再資協安全行動宣言」を唱和しました。紺野理事長より、当講習会の意義を参加者に伝えていただき、安全講習会の開始となりました。

- 一、 私たちは
市民、行政の信頼と付託に応え責任を持って行動します。
- 一、 私たちは
笑顔で挨拶、声掛け合って安全作業に努めます。
- 一、 私たちは
法令を順守し、安全運転を励行します。
- 一、 私たちは
地球環境、市民生活環境を配慮して、業務を遂行します。
- 一、 私たちは
再生資源のリサイクルを通じて地域社会に貢献します。

回収員としての心得を吉浦専務理事、組合規約・装備品等に関する説明・受注検査に關しての説明を青年部の紺野、市民対応、抜き取り業者への対応を青年部の水野が行いました。

その後、回収作業中の事故予測と安全対策に關するグループディスカッションを行いました。各テーブルごとに用意されたポスティングカードに、普段の回収作業中に感じた「ヒヤリ・ハット」を書いてもらい、模造紙に整理します。その後、「ヒヤリ・ハット」に対する対処を話し合い、全体で発表して事故予測と安全対策を共有しました。

小畑副理事長から、総評、閉会の辞をいただき無事安全講習を終了いたしました。

今後当組合では、官公需適格所得組合として、共同受注検査、安全講習会を行い適正化、と品質向上に努めてまいります。



日本最大級の環境展示会 エコプロダクツ2009 見学

十二月十日から十二日の三日間、当イベントは、東京ビッグサイトで開催された。多数の企業、官公庁、NPO、NGO、大学、教育機関などが環境への取り組みを紹介していた。大勢の見学者のほとんどは企業の方だが、小学生から高校生などの子供たちもたくさん見受けられた。

十日はエコプロダクツ会場内で、同時開催の(財)古紙再生促進センター関東地区古紙回収推進実行委員会主催のシンポジウム「紙リサイクルの更なる推進に向けて」に参加した。内容は、基調報告「古紙回収と利用の現状と課題」をテーマに、石川全原連副理事長、「古紙回収推進事業の実施について」をテーマに、白井古紙再生促進センター事務局長、そして「古紙に関する消費者意識調査結果報告」をテーマに、小笠原グロバルプランニング取締役がそれぞれ発表した。

終了後、第二部として梶野全原

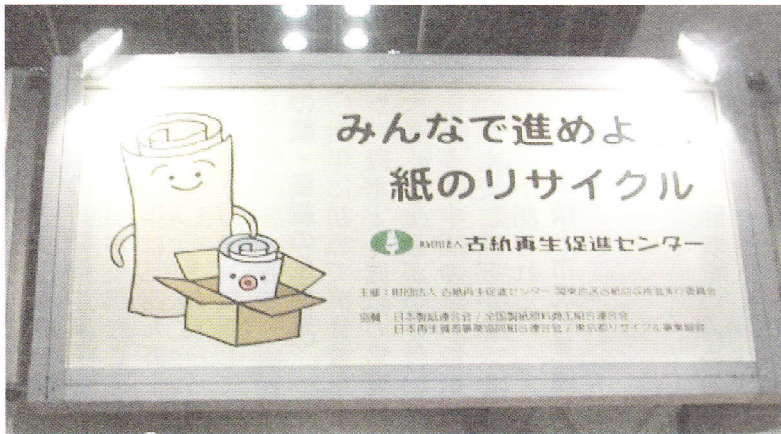


連経営革新委員会副委員長、高野日資連業務委員会回収部会長と、古紙問題市民ネットワーク代表の中村正子氏の三人のパネリストと、鈴木古紙再生促進センター専務理事がコーディネーターを務めて意見が交わされた。古紙配合率偽装問題への製紙業界のその後の対応についての発表が中心であったが、

再発防止の対策や環境保全のための追加貢献は、一定の評価ができるが、それらが世間一般に伝わっていない現実が問題とされた。

また、高野氏より、札幌市が始めた雑紙回収に対する行政への不信と、古紙回収現場の混乱等も報告された。

十一日は、日頃我々の業界に対して、市民の立場から応援してくれている古紙問題市民行政ネットワークのブースを見学方々、お手



伝いさせてもらった。今回、東京都資源回収事業協同組合より、組合の「ブーメラン」を提供し、クイズに答えてくれた来場者に配った。ブース内には、世界のトイレットペーパーと題して、ヨーロッパを中心としたトイレットペーパーのサンプルが貼りつけてあり、前を通る人が興味深そうに覗いていた。子供も交えてクイズに挑戦して、景品のトイレットペーパーをもらい、みな楽しそうであったが、中にはいくら説明しても、古紙百パーセントのトイレットペーパーは嘘だろうと納得しない方もいて、残念であった。古紙配合率偽装問題はまだ正しく理解されていない事も解った。

来場者にいろんな意見を言われても、古紙リサイクルの重要性、必要性を熱心に解説しておられた、古紙問題市民行政ネットワーク会員の方々には、頭が下がる思いであった。

お手伝い終了後、エコカー試乗会をやっていたので、水素自動車に乗せてもらった。静かな走行音と力強い加速に感激した。いつもより環境を意識できた二日間であった。

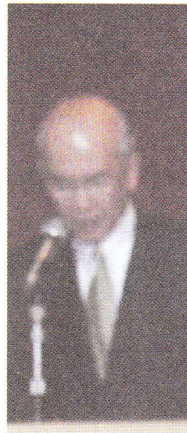
(吉浦)

日資連研修会報告

去る平成二十一年十一月八日(日)、東京・浅草の「浅草ビューホテル」で、日本再生資源事業協同組合連合会(日資連)主催の研修会が開催された。

①「再生紙への古紙混入率 偽装問題への対応」

財団法人古紙再生促進センター
専務理事 鈴木 節夫



財団法人古紙再生促進センターの概要と古紙回収推進事業の実施計画について説明。また、古紙再生促進センターが、全国二、〇〇〇人の消費者を対象に実施した環境問題や古紙リサイクル等に関する調査の結果を公表。一般市民は、古紙リサイクルや古紙の抜き取り問題よりも、地球温暖化等の環境問題に関心が高く、古紙配合率問題は年齢層が高いほど関心があつた。また、古紙利用製品の購入には「価格」を最も気にしている。更に、古紙回収に出不さない理由として紙の種類が多くて分別が難しいと云う声が多かった。古紙の禁

忌品については周知が四〇%台と低い等という結果が報告された。

最後に、東京農工大学名誉教授・大江礼三郎先生の著書「紙とリサイクルとーウソとホント」の中で「ウソの表示をしたことは、一般の消費者の環境への配慮する心を裏切り、回収努力をしている古紙業界に申し訳ないことです。今後の対応であります。ウソを無くすということ、紙の取引業界と密接に連携することが必要とされており、古紙リサイクル・古紙配合率偽装問題についてまとめと提言をした。

②「世界的な古紙・パニックから一年」

三ツ矢産商株式会社
代表取締役社長 杉山 正幸



「世界同時不況後の中国向けの古紙輸出価格」

二〇〇八年秋の世界同時不況で、一カ月程の間に中国向けの輸出価格が、輸出契約のキャンセル(五分の一から三分の一)や値引き要求によって暴落。二〇〇九年二月の中国の春節前の駆け込み輸入で価格がやや上昇すると、日本から

の輸出は急増した。(一月計で四十五万六千トンと史上最高の輸出。)

「近年の日本の古紙輸出量」

中国の古紙需要が堅調なこともあり、二〇〇八年は三四九万トンであったが、二〇〇九年は一ヶ月累計で三四八万トンに達している。

「中国の紙・板紙の生産量」

二〇〇七年に初めて消費量を上回ったが、段ボール原紙の需要は伸びが大きく、生産が追い付いていないと云う。中国の紙・板紙の需要は今後も更に需要が拡大を続けるだろうと予測される。

「日本の古紙事情と市況の見通し」

古紙回収量は千四百三十万トン(二〇〇九年一〜八月累計、対前年比九三%)、回収率は八〇・九%と伸びており、回収量に占める輸出の割合は二四・三%となる。市況の見通しは、紙・板紙の生産の低調な状況や、古紙回収の発生量の減少状態が続く、価格的には現状からあまり大きくない上下を繰り返すと思われる。

③「回収業務に求められるコンプライアンス」

釘島総合法律事務所
所長・弁護士 釘島 信博



コンプライアンスとは、企業活動に伴う法令遵守のことである。日本では戦前から、庶民が礼儀正しく、企業においても法令遵守が徹底されていた。しかし、戦争で敗北により、アメリカによって献上主義・自己主義がもたらされて洗脳された結果、企業の倫理が徐々に劣化してきた。近年では、食品メーカーや製紙メーカー等による商品の偽装問題等のコンプライアンス違反が多数発生する事態となっている。日本の企業におけるコンプライアンスの徹底を戦前のように取り戻すためには、一つには、企業の中に物やお金ではなく、そこで活動する人間の心や生き様を残す事、二つ目には、私達人間が、この世に生命をもらった運を生かして、人格・生活習慣・毎日の行動・社会に対する考え方を変えていき、最終的には心の持ちようを変え、「ありがたう」等の言葉で表わす事が必要である。日資連に加盟されている資源回収業界にとつてのコンプライアンスにおける問題は、近年横行している資源の抜き取り問題である。資源の抜き取りは窃盗罪にはなるが、各自自治体に条例が無ければ取り込まれない上、現行犯でなければ摘発・処罰等が行えないというのが現状である。したがって、対策としては条例のない自治体は速やかに条例を制定する、抜き取り防止の立て看板やパトロール等市民全体で監視をする事等が必要である。

豊島硝子 柏洋硝子工場 視察

普段我々が業として取り扱う専ら物は古紙、古布がほとんどです。カレットの知識については解らないことも多く、十一月三十日にカレット処理工場（豊島硝子二本松工場）と製びんメーカー（柏洋硝子二本松工場）の見学をさせていただきました。

【豊島硝子見学】

びんを製造するに当たり、カレットを使用するメリットは大きく次の2点があげられるようだ。

① 硅砂、石灰、ソーダ灰の主原料となる天然資源を節約することが出来る。

② 原料をガラス溶解炉で熔融する時間を短縮でき、重油の使用量も削減できる。又、二酸化炭素の排出も減らすことができる。

最近ではカレットの用途は単純なリサイクル瓶の製造だけでなく、建築材や道路の路盤材に使用されたりと多様になっているようだ。



【柏洋硝子見学】

続いて隣接する製びんメーカーも併せて見学させていただいた。こちらのメーカーでは、現在原料の85パーセントをカレットから製造しているようだが、現在の技術力をすればその使用比率はまだまだ上げる事は可能だと話していた。



【所感】

カレットは、再生资源物の中では難リサイクル原料のように認識していたが、見学後一変しました。現在豊島硝子では6つの工場及びストックヤードがあるそうだが、その6ヶ所全部が製造メーカーに隣接しているとのことだった。メーカーの購入意欲も高く、引き合いも非常に強いのだが、価格がまだまだ安くメーカーへの輸送コストを考慮すると近くに工場を作らざるを得ないようだ。

一昨年、RPFの製造工場を見学したが、回収コストの全く出ない再生资源であり価格の問題等については難リサイクル品と云えるのではと感じた。

しかし、我々古紙業界はメーカーの意向に左右され一喜一憂する事が多々あるのだが、カレット業界はメーカーとの関係が非常に良好のように感じ、羨ましさも感じた見学だった。

(福田)

第9回 西東京市民まつりに 参加

当組合は昨年11月14日・15日の両日に亘り西東京いこいの森公園にて開催された、西東京市民まつりに参加いたしました。
地元各市で行われるフェアや環境等に毎回参加させていただく中、今回西東京市の市民まつりは初の参加となりました。

当日は、西東京市ごみ減量推進



課、西東京市清掃事業協同組合の2団体のブースと並んで出店させていただき市民の方と交流させていただきました。
初日の14日午前中はあいにくの天候でしたが、2日目は晴天に恵まれ、両日で過去最高の13万5千人の来場者数にて大変な賑わいを見せました。
小さなお子さんから年配の方まで楽しそう楽しめる市民まつりにまた来年も参加させていただきたいと強く感じた2日間でした。

東多摩再資協リサイクルクイズ&アンケート(09/11/14~15西東京市民祭)507名調べ

①ニュースや情報を何から取り入れていますか？(複数回答可)

新聞	402
雑誌	107
テレビ	465
ラジオ	112
パソコンやインターネット	159
携帯電話	57
その他	7
・町会	
・市報	
・近所の友達	
・ミニコミ紙、自治体の広告紙	
・市の広告紙、サンケイリビング	

②古紙(新聞・雑誌・ダンボール)をどの回収に出していますか？(複数回答可)

集団回収	151
市の資源回収	306
新聞販売店回収	233
古紙問屋に持ち込む	1
その他	0

③市の資源回収に資源物を出される時、何時頃出されていますか？

回収前日の夜	31
回収日の朝6時より前	29
回収日の朝6時~8時30分の間	358
回収日の朝8時30分以降	85
その他	11
・マンションなので、いつでも出せます	
・マンションなので、何時でも可	
・団地なのでいつでも良い	
・マンションのゴミ置場なのでいつでも出せる	
・いつでも出しています	
・マンションのごみすて場なのでいつでも可	
・毎日だしている	
・マンションで決められた時間	

④最後に、感想やご意見をお聞かせ下さい

- ・ちゃんとリサイクルできているか不安になった
- ・個別、有料大歓迎
- ・出し方にも注意がカンジン！！
- ・今の人はとても気持ちよく持っていますのでそのままつけて下さい
- ・国で法律のような制度を作れば良い(地球を守る為)
- ・環境をよくする為少しでもエコに協力してます
- ・市のチラシにて見て出す
- ・ごみ袋をもっとお安くして欲しい
- ・これからもガンバってください
- ・ゴミ袋は無料にして貰いたい
- ・よくスーパー等のゴミ箱に買った内容物を入れてバックを捨てる人々を見かけますがごみ箱が山のようになっています
- ・あまりにも朝早く(4時・5時)出して起こされてしまう。とくに缶・ビンの音に 夏の早朝に
- ・ご苦労様です
- ・ごみ少なくなります。お世話になります
- ・家の前が集積所なので気にしています
- ・リサイクル出来る物が出来てよかった
- ・雨天の場合は大変です。本当にご苦労様です
- ・とても勉強になりました
- ・もっとリサイクルしようと思った
- ・資源活動にご協力ありがとうございます
- ・回収の方ごろうさま
- ・リサイクルは必要
- ・いつもエコに心掛ける
- ・御苦労様です
- ・封筒のりづけされている所は古紙で出してはダメ？なのかと思いました
- ・資源回収やっています
- ・おかあさんすごい。ははわいだい
- ・わかるものが少なければうれしいナア
- ・がんばってください
- ・よく分かった
- ・リサイクルは、大切！！

東資協青年部主催の 第2回青経塾に参加

去る十一月十九日に、東京都中小企業団体中央会組合研究集会補助金事業として開催された第二回東資協青経塾に参加しました。

青経塾は、業界の次世代を担う後継者や若手経営者を対象に、青年経済人としての資質向上や経営学を学ぶことを目的に年に三回開催されていて、今回はその二回目でした。

『社会起業家になった“お坊さん”が経営を語る！』と題し、メディアでも話題になっている『お坊さん』の派遣会社、株式会社おぼうさんどっとこむ 代表取締役 林数馬氏が講師として、業界のタブーに挑戦してきた経験や苦労話を交えながら、社会起業家としてのビジョンや経営に関する独自の思いを語って頂きました。

二代目三代目の多い青年部にとっては、創業社長である林氏のお話は新鮮で、刺激のあるものだったと思います。

前段のお話の後には、自己啓発のプログラムとして、二〇年後、三〇年後を見据えたビジョンを構築し、今何をすべきかをワークシ



ートを用いて参加者全員で考え、発表しました。

引き続きの懇親会の場においても、経営論や人生論など飲食をともにしながら、熱く語りあう機会となりました。

第一回の業界の話と違い、多くの異業種の方による経営に関するお話ということでしたが、正しいと思うことを聞き、最後まであきらめない熱意が大切であると感じたセミナーでした。

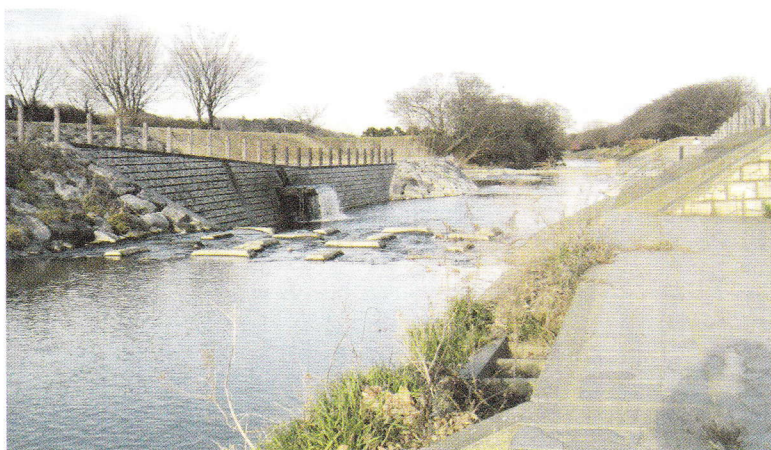
コラム

かまくらつーりー 柳瀬川沿いの散策

金山緑地公園は、清瀬の台田団地そばの柳瀬川沿いにあり、川沿いに作られて家族で楽しむにはうってつけのスポットとなっている。公園内の池には、カモが住み着いていたり、小川にはホタルが飼われていて、ホタルの飛び交う頃は、公園の照明を一部落として都心近郊では珍しくなった情景を体験できる。柳瀬川に架かる金山橋の下での水遊びも夏場には欠かせない楽しみとなっている。

金山公園から500mほど柳瀬川を下った堤防沿いには、1kmにも及ぶ桜並木があり花見の頃は出店も出て大変な賑わいになる。台田団地を目指してくればすぐお分かりになるだろう。

さらに桜並木がとぎれたところに城前橋があり、それを渡り500mほど、なだらかな坂を上ってゆくと「滝の城跡」への入り口に至る。埼玉県の指定史跡になっている15世紀後半〜16世紀前半に築城されたとされている。長い



石段を上って城跡から眺める景色も楽しみの一つだと思います。また柳瀬川をさかのぼり空堀川の合流地点に入ったところをせせらぎ公園やカタクリの花の群生している処などがある。柳瀬川沿いには季節ごとの色々な楽しみがあります。どうぞ時間が出来たならば、おいでになってみてください。

お悔やみ



藤野 操・元相談役

(昨年十二月六日)ご逝去

藤野操氏は、当組合会員(株)フジノの前身である藤野商店の創業者で、東資協田無支部の第七代支部長として組合活動の推進にも尽力され、享年八九才で大往生されました。二〇年ほど前まで元気に商売を続けられ、リヤカーにサオばかりを携えて各ご家庭を回ると言う戦前からのスタイルを押し通されまして、文字通り地域市民の手足となつて、資源回収を続けられた、東京で最後の業者ではなかったかと思ひます。スジの通らないことには一切妥協しない正直一徹の生き方は、今活躍している組合幹部のよき規範として引き継がれております。

貴方が身をもって示されたご教示を改めて心に刻み、組合員一同地域環境保全事業に邁進することをお誓い致します。

安らかにご永眠されますよう心からご冥福をお祈り申し上げます。

理事長・紺野武郎
合掌

行事・行動

【平成二十二年一月】

二日：財務委員会

六日：東資協理事会・多摩

八日：日資連・研修会

九日： ” ”

十一日：定例理事会

十三日：リサイクルセンター安全会議

十四日：西東京市市民祭り

十五日： ” ”

十七日：(社) 東リ協会理事会

：官公需検査委員会

十九日：中央会全国大会・幕張M

二十日：組合事業参加者・研修会

二十一日：日資連・理事会

二十四日：青年部会議

二十五日：古紙C理事会業務委員会

二十七日：クリーンJC特別委員会

三十日：視察研修・福島県

【十二月】

三日：中央会・東京大会

：エコアクションヒアリング

四日：リサイクルC・忘年会
八日：東資協・理事会
：財務委員会

一〇日：エコプロダクツ 2009

十三日：リサイクルセンター安全会議

一日：定例理事会

十五日：(社) 東リ協会理事会

： ” ” フォーラム

十八日：日資連SK委員会

二十一日：広報委員会

二十九日：仕事納め

【平成二十二年一月】

四日：仕事初め

五日：年始回り

八日：中央会・賀詞交歓会

：(財) 古紙C ”

：(社) 日本鉄リ工業会

：東資協理事会

一日：定例理事会

二日：クリーンJC特別委員会

：広報委員会

十三日：リサイクルセンター安全会議

十四日：千葉資連・賀詞交歓会

：青年部会議

十六日：神奈川資協・ ”

十九日：(社) 東リ協会理事会

二十一日：古紙C理事会業務委員会

：全原連・賀詞交歓会

二十三日：日資連・理事会

二十七日：官公需検査委員会

三十日：東多摩再資協・新年会

三十一日：郡資連・賀詞交歓会

編集後記

直言拝聴に御寄稿頂きました、山谷修作先生、「リサイクルの推進とごみ有料化」についての貴重な御提言をありがとうございます。

ごみ有料化の現状や、有料化に伴うリサイクルの促進、リサイクル推進のための行政・市民・販売事業者・再生資源業者間の協力体制作りの必要性等が、詳細に理解することが出来ました。

昨年はアメリカ、日本と政権が変わる事で、経済状況も少しは明るくなるかと思いましたが、期待通りにはいかないものです。隣国の中国と韓国はいち早く不況から脱出して高成長の様です。何回か研修で訪問して感じた事ですが、両国とも日本と同じようにホームレスの様な人々もたくさんいました。

しかし市場、商店、工場で働く人々はものすごくパワー溢れて働いていたように感じました。

法律や政策などで景気も動くかもしれないませんが、まず自分が一所懸命働くことが大事であり、人や政府をあてにしてもしかたありません。今年には虎・寅年。強く元気に不況をぶち破っていきましょう。